

(様式第 10)

防医医 号  
平成 28 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

管理者 防衛医科大学校病院長 (印)

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1
氏 名	防衛大臣 稲田 朋美

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

防衛医科大学校病院
-----------

3 所在の場所

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2	電話(04)2995-1511
-----------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 内分泌・代謝内科 4 消化器内科 5 感染症・呼吸器内科 6 血液内科 7 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 心臓・血管外科 3 呼吸器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 がん・薬物療法・腫瘍内科	3	4	5	6		
7	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	10床	床	床	754床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	225人	33.6人	258.6人	看 護 補 助 者	31人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	0.2人	9.2人	理 学 療 法 士	3人	臨床検査技師	34人
薬 剤 師	21人	0人	21人	作 業 療 法 士	2人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	3人	そ の 他	5人
助 産 師	11人	0人	11人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	440人	9.7人	449.7人	臨 床 工 学 士	7人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師	0人	0.7人	0.7人	栄 養 士	1人	その他の技術員	9人
歯 科 衛 生 士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	64人
管 理 栄 養 士	3人	0.7人	3.7人	診療放射線技師	22人	そ の 他 の 職 員	28人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	23人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	27人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	17人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	1人
泌 尿 器 科 専 門 医	12人	麻 酔 科 専 門 医	13人
産 婦 人 科 専 門 医	8人	救 急 科 専 門 医	11人
		合 計	172人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 長 谷 和 生 ) 任命年月日 平成27年 4月 1日

副院長 (医療安全担当) 平成24年4月1日～平成27年3月1日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	431.5人	2.5人	434.0人
1日当たり平均外来患者数	1,121.3人	34.6人	1,155.9人
1日当たり平均調剤数	655.3 剤		
必要医師数	110人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	15人		
必要(准)看護師数	274人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	203.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	11床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 52.3m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 10台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 37.8m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	252m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置			
細菌検査室	270m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO <sub>2</sub> 培養器			
病理検査室	252m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置			
病理解剖室	164m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽			
研究室	18,661m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム			
講義室	5,435m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	13室	収容定員	1,200人
図書室	3,023m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	約19万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	83.5%	逆紹介率	42.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数	13,581人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,622人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,290人	
	D: 初診の患者の数	20,193人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

※ 経過措置の適用により様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

※ 経過措置の適用により様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	
2	筋萎縮性側索硬化症	9	57	特発性拡張型心筋症	
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	18
5	進行性核上性麻痺		60	再生不良性貧血	
6	パーキンソン病	7	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	18
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	12
9	神経有棘赤血球症	21	64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トウース病	40	65	原発性免疫不全症候群	
11	重症筋無力症	15	66	IgA 腎症	
12	先天性筋無力症候群	39	67	多発性嚢胞腎	1
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	17	68	黄色靱帯骨化症	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	4	69	後縦靱帯骨化症	4
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	18
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	
17	多系統萎縮症	1	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)		73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライゾゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病		77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	3
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス		83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	13
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	
31	ベスレムミオパチー	1	86	肺動脈性肺高血圧症	20
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	
34	神経線維腫症		89	リンパ脈管筋腫症	5
35	天疱瘡		90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症		91	パッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)		92	特発性門脈圧亢進症	21
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎		95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	
42	結節性多発動脈炎	1	97	潰瘍性大腸炎	46
43	顕微鏡的多発血管炎	1	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	6
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	6
46	悪性関節リウマチ	86	101	腸管神経節細胞減少症	15
47	パージャール病	12	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	11
49	全身性エリテマトーデス		104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎		105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	54	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	2	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群		108	TNF受容体関連周期性症候群	34
54	成人スチル病		109	非典型溶血性尿毒症症候群	40
55	再発性多発軟骨炎	13	110	ブラウ症候群	61

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	30	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	7	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	43
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	16
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	13
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	5
120	遺伝性ジストニア	48	170	オクシピタル・ホーン症候群	1
121	神経フェリチン症	15	171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	27	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	19	175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	5	176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	15	179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	12
132	先天性核上性球麻痺	9	182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスマンド・トムソン症候群	5
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	12
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	24
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	7	194	ソトス症候群	4
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	24
147	早期ミオクロニー脳症	38	197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	7	198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	4
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	42	201	アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	1	202	スミス・マギニス症候群	1
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	12
155	ランドウ・クレフナー症候群	6	205	脆弱X症候群関連疾患	22
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	41	207	総動脈幹遺残症	2
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	2
212	三尖弁閉鎖症	93	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	18	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイトロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	1
217	エプスタイン病	4	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	9	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	9	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	6	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	27	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合	10	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症	5	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	52	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	47	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型	16	289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型	3	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型	31	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	1
247	イソ吉草酸血症	6	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	44	296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型	9	297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型	11	298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	14	299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症	45	300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全	31	301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	16	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	8	303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病	7	304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	3	305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	3	306	好酸球性副鼻腔炎	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
・歯科外来診療環境体制加算	・
・特定機能病院入院基本料 一般 10対1入院基本料 看護必要度加算2	・
・特定機能病院入院基本料 精神 15対1入院基本料	・
・臨床研修病院入院診療加算	・
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・療養環境加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・データ提出加算2	・
・救命救急入院料2	・
・特定集中治療室管理料3	・
・小児入院医療管理料4	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・透析液水質確保加算1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・がん患者指導管理料1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・がん患者指導管理料2	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・外来緩和ケア管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・地域連携診療計画管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん治療連携計画策定料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・薬剤管理指導料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医療機器安全管理料1	・経皮的冠動脈形成術
・歯科治療総合医療管理料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・検体検査管理加算(Ⅲ)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的大動脈遮断術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ダメージコントロール手術
・神経学的検査	・腹腔鏡下肝切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・画像診断管理加算1	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・同種死体腎移植術
・CT撮影及びMRI撮影	・生体腎移植術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・人工尿道括約筋植込・置換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術





## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
医療機器保守点検のガイドライン策定にむけた諸課題の調査研究	石原 美弥	医用工学	4,500,000	(補)	厚労科研費
治験開始にむけた前立腺癌に適用する光音響画像診断技術開発	石原 美弥	医用工学	28,500,000	(補)	厚労科研費
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	野々山 恵章	小児科学	6,405,000	(補)	厚労科研費
GATA2欠損症由来iPS細胞を用いた新規分化因子の同定	野々山 恵章	小児科学	4,000,000	(補)	厚労科研費
東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究	重村 淳	精神科学	1,000,000	(補)	厚労科研費
自己炎症疾患とその類縁疾患の診療基準、重傷度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	野々山 恵章	小児科学	600,000	(補)	厚労科研費
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	穂苅 量太	内科学	500,000	(補)	厚労科研費
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	佐藤 貴浩	皮膚科学	700,000	(補)	厚労科研費
腎・泌尿器系の希少難治性疾患群に関する調査研究	四ノ宮 成祥	分子生体制御学	1,200,000	(補)	厚労科研費
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	木下 学	免疫・微生物学	1,250,000	(補)	厚労科研費
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	高瀬 凡平	集中治療部	1,250,000	(補)	厚労科研費
タウリンによるMELAS脳卒中様発作再発抑制療法の実用化	海田 賢一	内科学	1,218,340	(補)	厚労科研費
新型インフルエンザ等への対応に関する研究	川名 明彦	内科学	1,000,000	(補)	厚労科研費
高次脳機能障害支援における血液バイオマーカーの活性に関する研究	守本 祐司	分子生体制御学	620,000	(補)	厚労科研費
アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいた革新的な核酸医薬外用療法の医師指導型臨床研究	佐藤 貴浩	皮膚科学	500,000	(補)	厚労科研費
早期乳がんに対するラジオ波熱焼灼療法の標準化に係る多施設共同臨床研究	津田 均	病態病理学	1,000,000	(補)	厚労科研費
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	野々山 恵章	小児科学	600,000	(補)	厚労科研費
自己炎症性疾患の治療標的分子の同定および薬剤開発基盤整備	野々山 恵章	小児科学	1,040,000	(補)	厚労科研費
直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究	長谷 和生	外科学	200,000	(補)	厚労科研費
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	高野 政志	腫瘍化学療法部	1,100,000	(補)	厚労科研費
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	海田 賢一	内科学	400,000	(補)	厚労科研費
ギラン・バレー症候群に対するエクリズムアの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	海田 賢一	内科学	1,200,000	(補)	厚労科研費
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	津田 均	病態病理学	1,000,000	(補)	厚労科研費
尿解析による腎疾患の診断に関する検討	櫻井 裕	衛生学公衆衛生学	350,000	(補)	文科科研費
ふなずし由来新規ラクトバシラス属菌が有する強力な抗炎症効果の作用機序	岡田 義清	内科学	1,384,263	(補)	文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究	安酸 史子	看護学科	100,000	(補) 文科科研費
卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究	北川 明	看護学科	50,000	(補) 文科科研費
ヘアピンプライマーPCR法を用いたウイルスの高感度検出法に関する研究	武井 史恵	化学	5,924,192	(補) 文科科研費
看護師に対する倫理サポートのアクションリサーチ	山下 早苗	看護学科	100,334	(補) 文科科研費
脂質の可視化と病理診断への応用	岩屋 啓一	病態病理学	120,246	(補) 文科科研費
抗ガングリオシド抗体の神経障害機構の解明と新規治療法の開発	海田 賢一	内科学	767,046	(補) 文科科研費
吸入麻酔薬が肝単核球免疫能に与える影響	高橋 哲也	病院麻酔科	2,740,399	(補) 文科科研費
経済的・社会的ハイリスク母子に対する食・栄養教育に関する研究	坂本 めぐみ	看護学科	1,324,771	(補) 文科科研費
維持期リハビリテーションを促進する車いす使用高齢者の姿勢アセスメント指針の検討	横山 悦子	看護学科	348,709	(補) 文科科研費
閉経後の椎間板変性機序解明に関する研究	細金 直文	整形外科	1,072,262	(補) 文科科研費
血管新生・再生の制御を目的とした『広帯域光音響画像』による血管径の定量化技術	石原 美弥	医用工学	6,563,027	(補) 文科科研費
分子遺伝学的解析による痛風の病態解明とゲノムテラーメイド医療への応用	松尾 洋孝	分子生体制御学	3,366,245	(補) 文科科研費
発達中の脳における麻酔薬の神経毒性に関する包括的研究	風間 富栄	麻酔学	6,516,267	(補) 文科科研費
Compromised hostへの重度侵襲対策	木下 学	免疫・微生物学	4,883,640	(補) 文科科研費
看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究	安酸 史子	内科学	1,799,121	(補) 文科科研費
細胞機能および細胞分化制御のための光技術の創製	櫛引 俊宏	医用工学	5,335,805	(補) 文科科研費
生物群集の種多様性に関する個体ベース空間明示モデリング	小田 牧子	数学	192,466	(補) 文科科研費
バイオテンプレートプロセスによる電磁波応答材料の開発	鎌田 香織	化学	1,214,102	(補) 文科科研費
薬物療法により病状進行となる高悪性度乳癌の予測に役立つ分子マーカーの検討	津田 均	病態病理学	1,918,073	(補) 文科科研費
安定同位元素比分析の身元不明遺体の出身地域の推定への応用	染田 英利	防衛医学	520,355	(補) 文科科研費
非アルコール性脂肪性肝炎と耐糖能異常におけるマクロファージの役割	中島 弘幸	免疫・微生物学	2,124,368	(補) 文科科研費
短パルス光の機械的・音響的作用を用いた血液脳関門の新規制御・評価技術の創出	佐藤 俊一	情報システム研究部門	1,498,990	(補) 文科科研費
ポルフィリン生合成系タンパクをマーカーとした口腔がんパーソナライズド光線力学療法	守本 祐司	分子生体制御学	452,539	(補) 文科科研費
新規原因遺伝子PSCK9による家族性高コレステロール血症のアポ蛋白代謝異常の解明	池脇 克則	内科学	1,012,702	(補) 文科科研費
発汗異常に伴う掌蹠の難治性皮膚疾患のOC Tを用いた3次元的な病態の解析	西澤 綾	病院皮膚科	2,273,530	(補) 文科科研費
痒疹及び近縁アレルギー疾患の炎症・痒みの病態解明とピンポイントな治療法の確立	佐藤 貴浩	皮膚科学	1,914,548	(補) 文科科研費
CD133・COX2・CD8による術前化学放射線療法の効果予測因子としての意義	神藤 英二	病院 外科	2,857,324	(補) 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌における新たな病理的指標とNomogramを用いた予後予測システムの確立	上野 秀樹	病院 外科	606,435	(補委) 文科科研費
水素-マグネシウム投与による新しい脳保護法の開発	森 健太郎	脳神経外科学	303,965	(補委) 文科科研費
気管狭窄に対する遺伝子導入と分子標的薬を用いた新しい治療法の開発	富藤 雅之	病院 耳鼻咽喉科	1,294,690	(補委) 文科科研費
衝撃波に起因するびまん性肺出血の病態解明と止血制御対策	萩沢 康介	生理学	1,860,826	(補委) 文科科研費
ナノシートとマイクロスキンを用いた重症熱傷救命のための治療開発研究	齋藤 大蔵	外傷研究部門	1,268,873	(補委) 文科科研費
顎顔面痛において性ホルモンがGABA機能に与える影響とそのメカニズムの解明	田代 晃正	生理学	1,176,800	(補委) 文科科研費
口腔扁平苔癬に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法・診断	守本 祐司	分子生体制御学	53,494	(補委) 文科科研費
小児がんの子供への病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの看護介入	山下 早苗	看護学科	700,000	(補委) 文科科研費
頭部外傷後の脳虚血侵襲時に出現する神経幹細胞の性質及び動的変化の病理組織学的検討	原田 一樹	法医学	2,200,219	(補委) 文科科研費
会陰アプローチによる仙骨前隙を利用した腹腔鏡下手術	谷水 長丸	外科学	1,050,346	(補委) 文科科研費
末梢神経過誤再生に対する新しい治療法の開発	塩谷 彰浩	耳鼻いんこう科学	1,517,366	(補委) 文科科研費
深部血管の非侵襲計測が可能な光音響法による血液酸素飽和度分布画像化システムの開発	平沢 壮	医用工学	1,550,885	(補委) 文科科研費
光、磁場を利用したIn vivo遺伝子発現操作系の開発	伊達木 穰	生化学	1,228,826	(補委) 文科科研費
肝細胞特異的な外来遺伝子のゲノム挿入系の開発とその応用	中村 伸吾	外科学	1,446,608	(補委) 文科科研費
口腔顔面運動神経細胞に入力するコリン作動性C-terminalネットワークの解析	松井 利康	解剖学	818,264	(補委) 文科科研費
痒疹モデルマウスの樹立と解析による治療方法の研究	端本 宇志	皮膚科学	600,896	(補委) 文科科研費
幼若脳への麻酔薬の神経毒性に対する治療法の開発	与那嶺 龍二	手術部	2,782,064	(補委) 文科科研費
妊婦の蓄積性化学物質曝露による分娩および新生児の健康影響の解明	西岡 笑子	看護学科	1,137,968	(補委) 文科科研費
オプトジェネティクスによる転写環境制御	櫛引 俊宏	医用工学	6,800,000	(補委) 文科科研費
サイレント・マジョリティ(声なき声)を可視化する「生活再建過程学」の構築	秋富 慎司	病院 救急部	400,000	(補委) 文科科研費
貪食B細胞の免疫能に関する研究	中島 正裕	免疫・微生物学	1,000,000	(補委) 文科科研費
救急搬送が必要な独居高齢者が、緊急時通報システムを使用しない要因	山岸 里美	看護学科	800,000	(補委) 文科科研費
先天性免疫不全症由来iPS細胞を用いた新規免疫系細胞分化因子の同定	野々山 恵章	小児科学	3,832,900	(補委) 文科科研費
光線力学効果に基づく感染制御と創傷治癒促進による新しい褥瘡治療	守本 祐司	分子生体制御学	6,379,089	(補委) 文科科研費
小腸を介したコレステロール逆転送を活性化するポリフェノールの網羅的探索	池脇 克則	内科学	50,000	(補委) 文科科研費
脂質異常症による神経新生障害の機序解明	石塚 俊晶	薬理学	1,879,485	(補委) 文科科研費
死別を体験した子どもの心理・社会的サポートの構築と検証に関する研究	高橋 聡美	看護学科精神看護学	1,565,850	(補委) 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
非celiacグルテン過敏性腸症の実態調査-過敏性腸症候群との関連に注目して-	渡邊 知佳子	内科学	2,172,409	(補) 文科科研費
NASH発症における自然免疫防御反応とKupffer細胞の機能分化の解析	中島 弘幸	免疫・微生物学	150,000	(補) 文科科研費
神経芽細胞腫におけるNIPA蛋白とMYCN蛋白の相互作用についての研究	川口 裕之	小児科学	1,516,276	(補) 文科科研費
東日本大震災の災害救援業務において救援者が被る心理的影響に関する縦断研究	長峯 正典	行動科学研究部門	1,285,203	(補) 文科科研費
StageIII大腸癌患者における術後補助化学療法の効果予測因子の抽出	長谷 和生	外科学	2,476,360	(補) 文科科研費
小胞体ストレス誘導による膀胱癌新規治療法の開発	佐藤 全伯	泌尿器科学	1,154,707	(補) 文科科研費
蝸牛有毛細胞・らせん神経節細胞の遅発性脱落メカニズムの解明	水足 邦雄	病院耳鼻いんこう科	204,861	(補) 文科科研費
難治性頭頸部癌に対する腫瘍溶解性センダイウイルスによる治療効果	山下 拓	病院	1,237,147	(補) 文科科研費
センチネルリンパ節を標的とした新たな頭頸部癌機能温存治療の開発	荒木 幸仁	病院耳鼻いんこう科	2,738,150	(補) 文科科研費
活性化ビタミンD3外用製剤のマイホーム腺機能不全(MGD)治療への応用	伊藤 正孝	再生発生学	150,000	(補) 文科科研費
ビタミンDの前眼部上皮における働きに関する細胞生物学的研究	伊藤 正孝	解剖学	1,708,750	(補) 文科科研費
侵襲時の生体防御不全対策としての貪食細胞活性化	宮崎 裕美	外傷研究部門	1,395,612	(補) 文科科研費
「渴き」への爽快感のある「潤い」は是が非か?	田代 晃正	生理学	111,938	(補) 文科科研費
ルーブリック評価を取り入れたカリキュラムとその効果に関する研究	北川 明	看護学科 兼精神科学	1,582,764	(補) 文科科研費
血糖値変動の実態解明による慢性疾患予防プログラムの構築	櫻井 裕	衛生学公衆衛生学	150,000	(補) 文科科研費
血糖値変動の実態解明による慢性疾患予防プログラムの構築	西田 育弘	生理学	136,587	(補) 文科科研費
胎児発育における母胎のインスリン抵抗性とリパーゼ活性の役割の解明	西岡 笑子	看護学科	10,000	(補) 文科科研費
新規合成法による銀ナノ粒子と担体との複合化による抗微生物化学衛生・医療材料の創製	石原 雅之	医療工学研究部門	1,411,586	(補) 文科科研費
蛍光マルチスペクトル内視鏡による標的蛍光物質の定量イメージング	守本 祐司	分子生体制御学	2,229,199	(補) 文科科研費
肥満児はなぜアレルギーになりやすいのか?-高糖質食と脂肪組織との関連について-	服部 秀美	医療工学研究部門	2,028,259	(補) 文科科研費
新規抗酸化剤を用いた新しい放射線傷害軽減対策	木下 学	免疫・微生物学	1,230,310	(補) 文科科研費
光線力学療法によるHelicobacter pylori除菌に関する研究	平木 修一	外科学	1,592,328	(補) 文科科研費
敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究	辻本 広紀	病院外科	50,000	(補) 文科科研費
敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究	木下 学	免疫・微生物学	57,684	(補) 文科科研費
敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究	宮崎 裕美	外傷研究部門	150,000	(補) 文科科研費
敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究	平木 修一	外科学	100,000	(補) 文科科研費
敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究	青笹 李文	病院外科	100,000	(補) 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医療施設における高齢者看護の質評価指標の開発	松井 美帆	看護学科老年看護学	1,390,677	(補) 文科科研費
音声の病態分析を用いた治療効果のフォローアップ技術の開発	松尾 洋孝	分子生体制御学	1,100,000	(補) 文科科研費
東日本大震災後の喪失悲嘆に対する中長期の心理社会的支援プログラムの開発と検証	高橋 聡美	看護学科	350,000	(補) 文科科研費
c-Metアロステリック/触媒部位を標的とした新規デュアル・インヒビターの創製	四ノ宮 成祥	分子生体制御学	2,800,000	(補) 文科科研費
臨界期における全身麻酔薬の神経発達制御メカニズムへ及ぼす影響	佐藤 泰司	病院 麻酔科	6,200,000	(補) 文科科研費
混合病棟における周産期の安全と質保証を担保するための看護人員配置に関する研究	西岡 笑子	看護学科	100,000	(補) 文科科研費
開発途上国における環境汚染の小児健康影響に関する国際共同研究	西岡 笑子	看護学科	50,000	(補) 文科科研費
外来及び一般病棟看護師が行う多量飲酒者へのアセスメント及び介入の実態	内野 小百合	看護学科	1,100,000	(補) 文科科研費
児童虐待通告と看護師-家族関係に関する混合研究	浦出 美緒	看護学科	900,000	(補) 文科科研費
被災地域に暮らす高齢者の健康支援のためのコミュニティ・エンパワメントモデルの開発	早野 貴美子	看護学科	1,100,000	(補) 文科科研費
グローバルな感染症等生物学的脅威を巡る新たな紛争領域の研究	四ノ宮 成祥	分子生体制御学	1,100,000	(補) 文科科研費
細胞の活動を反映する光散乱パターンを用いた脳梗塞イメージング法の開発	川内 聡子	情報システム研究部門	1,800,000	(補) 文科科研費
光と音響の生体内伝播理論に基づく胎児への酸素供給モニタリングシステムの開発	大川 晋平	医用工学	1,400,000	(補) 文科科研費
死後髄液から死亡前発症のけいれん発作の有無を検出する法医診断技術の基盤的研究	金武 潤	法医学	50,000	(補) 文科科研費
遊離コレステロール由来シグナル制御に基づいた、脂肪肝炎・肝臓癌新規治療法の確立	富田 謙吾	病院 内科	2,600,000	(補) 文科科研費
胎児性白血病の発祥・進展・自然治癒と造血微小環境の関連に関する研究	川口 裕之	小児科学	200,000	(補) 文科科研費
遺伝・環境要因相互作用のPTSDへの影響とその病態の解明	戸田 裕之	精神科学	1,300,000	(補) 文科科研費
精神科治療が脳神経細胞内オートファジー信号に与える影響の探索	丹生谷 正史	病院 精神科	1,200,000	(補) 文科科研費
超分子デバイスを用いた胃癌腹膜転移診断と光線力学療法の効果に関する研究	辻本 広紀	病院 外科	1,100,000	(補) 文科科研費
脳外科手術の術中画像診断における光音響画像化技術の有用性の検証	大谷 直樹	病院 脳神経外科	1,900,000	(補) 文科科研費
水溶液αリガ酸誘導体の脳保護効果と抗酸化能:スピン共鳴解析による検討	西田 育弘	生理学	100,000	(補) 文科科研費
麻酔薬の発達期脳神経回路形成に与える影響の検討	児玉 光巖	麻酔学	900,000	(補) 文科科研費
ナノシートを用いた脂肪由来幹細胞移植の研究	青木 伸峰	病院 形成外科	1,000,000	(補) 文科科研費
ジェンダーの視点からみた介護が就労に及ぼす影響および社会的損失	西岡 笑子	看護学科	50,000	(補) 文科科研費
早産児を育てる父親の育児支援プログラムの開発	中富 利香	看護学科	780,000	(補) 文科科研費
ミャンマーの照葉樹林帯における生活科学に関する資源利用特性と植生の関係	朝比奈 はるか	病院 救急部	900,000	(補) 文科科研費
金ナノ粒子の分散・凝集挙動を分光特性で捉え、関節軟骨の潤滑機能の評価に活かす	石原 美弥	医用工学	1,400,000	(補) 文科科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトiPS細胞の奇形腫を介した分化細胞の誘導法開発と病態解明への応用	松村 耕治	共同利用研究施設	1,100,000	(補) 文科科研費
分子遺伝学的解析を活用したヒト腸管上皮における尿酸排泄機構の解明	松尾 洋孝	分子生体制御学	1,400,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	山本 順司	外科学	100,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	長谷 和生	外科学	100,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	谷水 長丸	外科学	100,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	木下 学	免疫・微生物学	100,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	川内 聡子	情報システム研究部門	100,000	(補) 文科科研費
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	佐藤 俊一	情報システム研究部門	100,000	(補) 文科科研費
EAOH原因分子APTXのDNA二重鎖切断修復機能と免疫神経細胞分化障害の解明	野々山 恵章	小児科学	1,400,000	(補) 文科科研費
インプラントブルオプティカルデバイスを用いた光線力学免疫療法による難治性がん治療	青笹 季文	病院外科	1,300,000	(補) 文科科研費
看護師のための夜勤時多重課題対策指針の開発ー夜間の患者安全と生活の質保証に向けてー	宮首 由美子	看護学科	60,000	(補) 文科科研費
MRリンパ管イメージングが先導するリンパ浮腫の診断・治療イノベーション	曾我 茂義	放射線医学	1,300,000	(補) 文科科研費
先天性心疾患の光音響効果を利用した生体情報計測システムの開発	石原 美弥	医用工学	700,000	(補) 文科科研費
機能性プローブに基づく生体深部光音響イメージング技術の確立: activatableプローブの開発研究とin vivo可視化イメージング技術の	石原 美弥	医用工学	14,073,000	(補) 文科科研費
バイオメディカル光イメージングにおける数理モデルと画像再構成	大川 晋平	医用工学	650,000	(補) 文科科研費
ストレスチェック用デバイス開発に関する研究	守本 祐司	分子生体制御学	8,000,000	(補) 文科科研費

小計16  
合計149

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Masaki Nobuyuki	内科学	Association between brachial-ankle pulse wave velocity and the ratio of l-arginine to asymmetric dimethylarginine in patients undergoing coronary angiography.	Journal of Cardiology 65(4):311-7,2015
2	Shiraishi Yasunaga	内科学	Elevation of Derivatives of Reactive Oxygen Metabolites Elevated in Young "Disaster Responders" in Hypertension due to Great East Japan Earthquake.	International Heart Journal 57(1):61-6,2016
3	Hakuno Daihiko	内科学	Right Ventricular Wall Dissection With Ventricular Septal Rupture Following Myocardial Infarction Visualized on 3-Dimensional Transthoracic Echocardiography.	Journal of Cardiology 65(4):311-7,2015
4	Oshima Naoki	内科学	Uric acid, indoxyl sulfate, and methylguanidine activate bulbospinal neurons in the RVLM via their specific transporters and by producing oxidative stress.	Neuroscience 304:133-145
5	Kouzaki Yuzi	内科学	High-Attenuation Mucus in Allergic Bronchopulmonary Aspergillosis.	Archivos de Bronchoneumologia 52(1):46-47,2015
6	Kouzaki Yuzi	内科学	A simple and rapid identification method for Mycobacterium bovis BCG with loop-mediated isothermal amplification.	PLOS ONE 54(4)e0133759. doi: 10.1371,2015
7	Kouzaki Yuzi	内科学	PURE-LAMP procedure for the diagnosis of extrapulmonary tuberculosis.	Internal Medicine 54(4):1447-14507,2015
8	Kawano Shuichi	内科学	Solitary Endobronchial Tumor Due to Sarcoidosis: An Autofluorescence Bronchoscopic Image.	Archivos de Bronchoneumologia 52(1):47-48,2015
9	Kazuo Imai	内科学	Chikungunya fever in Japan imported from the Caribbean islands	Japanese Journal of Infectious Diseases Article ID: JJID.2015.063 .2015
10	Narimatsu K	内科学	Toll-like receptor (TLR) 2 agonists ameliorate indomethacin-induced murine ileitis by suppressing the TLR4 signaling.	J Gastroenterol Hepatol. 30(11): p.1610-1617, 2015.11
11	Higashiyama Masaaki	内科学	Lethal hemorrhage from duodenal ulcer due to small pancreatic cancer.	Clin J Gastroenterol. 8(4): p.236-239, 2015.08

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Ueda T	内科学	Recombinant Thrombomodulin Modulates Murine Colitis Possibly via High-Mobility Group Box 1 Protein Inhibition.	Digestion 92(2): p.108-119, 2015.08
13	Watanabe Chikako	内科学	Endoscopic and clinical evaluation of treatment and prognosis of Cronkhite-Canada syndrome: a Japanese nationwide survey.	J Gastroenterol. Epub ahead of print: p.0-0, 2015.07
14	Sato H	内科学	Pregnant woman with non-comatose autoimmune acute liver failure in the second trimester rescued using medical therapy: A case report.	Hepatology research 45(3): p.349-355, 2015.03
15	Uchida T,	内科学	Role of tubulointerstitial plasmin in the progression of IgA nephropathy.	Journal of Nephrology 2016 Feb;29(1):53-62.
16	Oshima N.	内科学	Uric acid, indoxyl sulfate, and methylguanidine activate bulbospinal neurons in the RVLM via their specific transporters and by producing oxidative stress.	Neuroscience. 2015 Sep 24 ;304:133-45.
17	Ito S.	内科学	Observation of Angiolymphoid Hyperplasia with Eosinophilia (ALHE) at Three Arterial Sites and Its Association with Membranous Nephropathy.	Intern Med. 2015;54(15) :1933-9.
18	Uchida T.	内科学	Medullary sponge kidney diagnosed by unenhanced magnetic resonance imaging.	Iran Journal of Kidney Disease. 2015 ;9(1):18.
19	Ono Yosuke	総合臨床部	A rabbit model of fatal hypothyroidism mimicking "myxedema coma" established by microscopic thyroidectomy	Endocrine Journal, 2016 Feb 26
20	Mieno Shiraishi	総合臨床部	A high concentration of triiodothyronine attenuates the stimulatory effect on hemin-induced erythroid differentiation of human erythroleukemia K562 cells	Endocrine Journal Vol,62,No5 (May 2015)
21	Kunihisa Hamano	総合臨床部	Lactisole inhibits the glucose-sensing receptor T1R3 expressed in mouse pancreatic $\beta$ -cells	Journal of Endocrinology (2015) 226,57-66
22	Yosuke Ono	総合臨床部	Factors Associated With Mortality of Thyroid Storm: Analysis Using a National Inpatient Database in Japan	Medicine Vol.95 (7) :e2848
23	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	A non-randomized confirmatory study regarding selection of fertility-sparing surgery for patients with epithelial ovarian cancer:Japan Clinical Oncology Group Study(JCOG1203).	Japanese Journal of Clinical Oncology
24	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	What is an appropriate second-line regimen for recurrent endometrial cancer? Ancillary analysis of the SGSG012/GOTIC004	Intergroup study Cancer Chemother Pharmacol

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
25	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	Is modified radical hysterectomy needed for patients with clinical stage I/II endometrial cancers?: A historical-control study	Oncology
26	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	The impact of ARID1A/BAF250a expression upon carcinogenesis and clinicopathologic factors in pure-type clear cell adenocarcinoma of the ovary.	Mol Clin Oncol
27	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	Dedifferentiated endometrioid adenocarcinoma of the uterus: a case report and review of adjuvant therapeutic modalities.	Eur J Gynaecol Oncol
28	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	The impact of UGT1A1 genotype upon toxicities of combination with low-dose irinotecan plus platinum.	Asia-Pacific J Clin Oncol
29	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	Immunocytochemical Utility of Claudin-4 Versus Those of Ber-EP4 and MOC-31 in Effusion Cytology	Diagnostic Cytopathology
30	Takano Masashi	腫瘍化学療法部	Prolonged overall survival in stage IV patient with malignant transformation from ovarian mature cystic teratoma by combination therapy including radiotherapy.	Eur J Gynaecol Oncol
31	Yoshikawa Tomoyuki	腫瘍化学療法部	Is modified radical hysterectomy needed for patients with clinical stage I/II endometrial cancers?: A historical-control study	Oncology
32	Yoshikawa Tomoyuki	腫瘍化学療法部	Prolonged overall survival in stage IV patient with malignant transformation from ovarian mature cystic teratoma by combination therapy including radiotherapy.	Eur J Gynaecol Oncol
33	Hinoki Akinori	外科学	Polylactic acid nanosheets in prevention of postoperative intestinal adhesion and their effects on bacterial propagation in an experimental mode	Br J Surg Mar 3. doi: 10.1002/bjs.10122, 2016
34	Matsumoto Yusuke	外科学	Abdominal Infection Suppresses the Number and Activity of Intrahepatic Natural Killer Cells and Promotes Tumor Growth in a Murine Liver Metastasis Model	Ann Surg Oncol 23(Suppl 2): 257-65, 2016
35	Kubo Toru	外科学	Perioperative Programmed Death 1 Expression on Cd4+ T Cells Predicts the Incidence of Postoperative Infectious Complications	Shock 44: 323-9, 2015
36	Moriya Tomoyuki	外科学	The influence of dietary restriction on hepatic mononuclear cell numbers and functions in mice	J Surg Res 198: 120-6, 2015
37	Tsujimoto Hironori	外科学	Theranostic Photosensitive Nanoparticles for	Ann Surg Oncol 22(Suppl 3) : 923-8, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	Fukazawa Satomi	外科学	Laminin $\beta$ 3 expression as a prognostic factor and a predictive marker of chemoresistance in colorectal cancer	Jpn J Clin Oncol. 45(6):533-40, 2015
39	Shinto Eiji	外科学	Validation and Modification of the Japanese Classification System for Liver Metastases from Colorectal Cancer: A Multi-institutional Study.	Ann Surg Oncol. 22(5):1504-12, 2015
40	Ueno Hideki	外科学	In rectal cancer, the type of desmoplastic response after preoperative chemoradiotherapy is associated with prognosis	Virchows Arch 466: 655-663, 2015
41	Ueno Hideki	外科学	Prognostic value of poorly differentiated clusters in the primary tumor in patients undergoing hepatectomy for colorectal liver metastasis	Surgery 157: 899-908, 2015
42	Ueno Hideki	外科学	Histological Categorization of Desmoplastic Reaction: Its Relevance to Colorectal Cancer Microenvironment and Prognosis	Annals of Surgical Oncology 22:1504-1512, 2015
43	Ueno Hideki	外科学	Laminin b3 expression as a prognostic factor and a predictive marker of chemoresistance in colorectal cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology 45:533-540, 2015
44	Moriya Tomoyuki	外科学	The influence of dietary restriction on hepatic mononuclear cell numbers and functions in mice.	J Surg Res. Sep;198(1):120-6.2015
45	Moriya Tomoyuki	外科学	Effects of Preoperative Use of an Immune-Enhancing Diet on Postoperative Complications and Long-Term Outcome: A Randomized Clinical Trial in Colorectal Cancer Surgery in Japanese Patients.	Gastroenterology and Hepatology, Vol. 2, No. 1, pp. 1-8, 2015
46	Tsujimoto Hironori	外科学	In vivo evaluation of a modified linear stapling device designed to facilitate accurate pathologic examination of the surgical margin.	Gastric Cancer, 19(2): 666-669, 2016
47	Takahata Risa	外科学	Preoperative chemoradiation therapy for esophageal cancer is a risk factor for the elevation of high mobility group box chromosomal protein 1, leading to an increase in postoperative severe pulmonary complications.	Disease of the Esophagus, 29(1): 70-78, 2016
48	Matsumoto Yusuke	外科学	Abdominal infections promote liver metastases by numerical and functional decrease of intrahepatic natural killer cells in a murine model.	Annals of Surgical Oncology, 23(Suppl 2): 257-265, 2016
49	Tsujimoto Hironori	外科学	Laparoscopic jejunostomy for obstructing upper gastrointestinal malignancies.	Molecular and Clinical Oncology, 3(6): 1307-1310, 2015
50	Tsujimoto Hironori	外科学	Theranostic photosensitive nanoparticles for lymph node metastasis of gastric cancer.	Annals of Surgical Oncology, 22: S923-S928, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Yaguichi Yoshihisa	外科学	CD47 is an adverse prognostic factor and a therapeutic target in gastric cancer.	Medicine, 4(9): 1322-1333, 2015
52	Yaguichi Yoshihisa	外科学	Preferentially examined sentinel nodes for sentinel node navigation surgery in gastric cancer.	Molecular and Clinical Oncology 3: 944-948, 2015
53	Aosasa Suefumi	外科学	The prediction of postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy by the serum C-reacting protein level during the early postoperative period.	Journal of the National Defense Medical College 40: 10-20, 2015
54	Itazaki Yujiro	外科学	Pneumatosis intestinalis with obstructing intussusception: A case report and literature review.	World Journal of Gastrointestinal Surgery 8(2): 173-178, 2016
55	Harada Manabu	外科学	Successful laparoscopic repair of an incarcerated Bochdalek hernia associated with increased intra-abdominal pressure during use of blow gun: A case report.	International Journal of Surgery Case Reports 23: 131-133, 2016
56	Ishibashi Yusuke	外科学	Laparoscopic resection of a huge retroperitoneal cystic lymphangioma after successful reduction of tumor size with a double balloon catheter.	International Journal of Surgery Case Reports 11: 8-10, 2015.
57	Shinichi Taguchi	外科学	Primary cardiac solitary fibrous tumors.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 21(4):329-331,2015
58	Aosasa Suefumi	外科学	Long great saphenous vein grafting as temporary coronary bypass for extended left hepatectomy: report of a case	Surical Case Reports 1(1):8,2015
59	Aosasa Suefumi	外科学	Intrahepatic Cholangiocarcinoma With Lymphoepithelioma-like Carcinoma Components Not Associated With Epstein-Barr Virus	International Surgery 100(4):689-695,2015
60	Aosasa Suefumi	外科学	Inframesocolic Superior Mesenteric Artery First Approach as an Introductory Procedure of Radical Antegrade Modular Pancreatosplenectomy for Carcinoma of the Pancreatic Body and Tail	Journal of Gastrointestinal Surgery 20(2):450-454,2016
61	Aosasa Suefumi	外科学	Total Pancreatectomy with Celiac Axis Resection and Hepatic Artery Restoration Using Splenic Artery Autograft Interposition	Journal of Gastrointestinal Surgery 20(3):644-647,2016
62	Tsunenari Takazumi	外科学	Synchronous neuroendocrine tumors in both the pancreas and ileum: A case report	International Journal of Surgical Case Reports 20:47-50,2016
63	Shigemura Jun	精神科学	Rumor-related and exclusive behavior coverage in Internet news reports following the 2009 H1 N1 influenza outbreak in Japan.	Disaster Medicine and Public Health Preparedness 9(4):459-463,2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	Shigemura Jun	精神科学	Mental health support for healthcare workers after the Great East Japan Earthquake: Five years on.	Nursing Health Sciences 18(1):1-3,2016
65	Suda Tetsufumi	精神科学	Interictal dysphoric disorder in patients with localization-related epilepsy: Diagnostic relationships with DSM-IV psychiatric disorders and the impact of psychosocial burden	Epilepsy and Behaviour 54:142-147,2015
66	Tatsuzawa Yasutaka	精神科学	An interictal schizophrenia-like psychosis in an adult patient with 22q11.2 deletion syndrome.	Epilepsy & Behavior Case Reports 3:36-38,2015
67	Toda Hiroyuki	精神科学	Affective temperaments play an important role in the relationship between childhood abuse and depressive symptoms in major depressive disorder.	Psychiatry Research 236:142-147,2016
68	Toda Hiroyuki	精神科学	The structural equation analysis of childhood abuse, adult stressful life events, and temperaments in major depressive disorders and their influence on refractoriness.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 11: 2079-2090,2015
69	Tamaki Kato	小児科学	RAG1 deficiency may present clinically as selective IgA deficiency.	J Clin Immunol. 35:280-288, 2015
70	Kanako Mitsui-Sekinaka	小児科学	Clinical features and hematopoietic stem cell transplantations for CD40 ligand deficiency in Japan.	J Allergy Clin Immunol. 136:1018-1024., 2015
71	Matsukawa Keitaro	整形外科科学	Biomechanical evaluation of lumbar pedicle screws in spondylytic vertebrae: comparison of fixation strength between the traditional trajectory and a cortical bone trajectory.	Journal of Neurosurgery Spine24 (4) : 910-915, 2016
72	Matsukawa Keitaro	整形外科科学	Incidence and Risk Factors of Adjacent Cranial Facet Joint Violation Following Pedicle Screw Insertion Using Cortical Bone Trajectory Technique.	Spine (Phila Pa 1976): 2016(Epub ahead of print)
73	Matsukawa Keitaro	整形外科科学	Biomechanical evaluation of fixation strength among different sizes of pedicle screws using the cortical bone trajectory: what is the ideal screw size for optimal fixation?	Acta Neurochir (Wein): 158(3): 465-471, 2016
74	Susa Michiro	整形外科科学	Novel MR imaging method--MAVRIC--for metal artifact suppression after joint replacement in musculoskeletal tumor patients.	BMC Musculoskelet Disord 16: 377, 2015.
75	Naobumi Hosogane	整形外科科学	Scoliosis is a Risk Factor for Gastroesophageal Reflux Disease in Adult Spinal Deformity.	J Spinal Disord Tech. 2015 Mar 18 Epub ahead of print
76	Mori Kentaro	脳神経外科学	Canine double hemorrhage model of experimental subarachnoid hemorrhage	Acta Neurochir Suppl 120: 347-51, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	Otani Naoki	脳神経外科学	Surgical removal of the solitary metastasis of renal cell carcinoma in the third ventricle using an interhemispheric transcallosal transchoroidal approach	Asian J Neurosurg Jan-Mar; 10(1): 58. doi: 10.4103/1793-5482.151526.
78	Wada Kojiro	脳神経外科学	Safe fronto-orbit-zygomatic osteotomy using a diamond-coated threadwire saw in orbit-zygomatic craniotomy	Asian J Neurosurg 10: 250-2, 2015
79	Oshio Ayako	皮膚科学	Erythema induratum of Bazin with anti-phospholipid antibodies	Journal der Deutschen Dermatologischen Gesellschaft 13 : 810-811 2015
80	Hashimoto Takashi	皮膚科学	Protective role of STAT6 in basophil-dependent prurigo-like allergic skin inflammation.	J Immunol 194 : 4631-4640, 2015.
81	Ono Koji	皮膚科学	Eosinophilic pustular folliculitis clinically presenting as orofacial granuloma: successful treatment with indomethacin, but not ibuprofen	Acta Derm venereol 95 : 361-362, 2015
82	Chikazawa Sachiko	皮膚科学	Fish collagen allergy: a pitfall of the prick-to-prick test with raw fish	Br J Dermatol 173: 1330-1331, 2015
83	Hashimoto Takashi	皮膚科学	Generalized pruritus in primary sclerosing cholangitis implications of histamine by lysophosphatidic acid	Br J Dermatol 173 : 1334-1336, 2015
84	Iikawa Madoka	皮膚科学	Extraocular sebaceous carcinoma in association with a clonal seborrheic keratosis: dermoscopic features	J Dermatol 42: 1105-1106, 2015
85	Yoshii yuta	皮膚科学	Primary follicle center lymphoma in a patient with WHIM syndrome.	J Eur Acad Dermatol Venereol 30:529-530,2016
86	Sakiyama Masayuki	皮膚科学	The effects of URA1/SLC22A12 nonfunctional variants, R90H and W258X, on serum uric acid levels and gout/hyperuricemia progression.	Sci Rep 6:20148 2016
87	Oshio-Yoshii Ayako	皮膚科学	Cutaneous macrobubulosis: successful treatment with rituximab	J Eur Acad Dermatol Venereol 2016mar 17.doi:10.1111/jdv.13613
88	Hashimoto Takashi	皮膚科学	Persistent supraveneous erythematous eruption-like changes from antibiotic	J Dermatol 2016Mar 30 doi:10.1111/1346-8138.13351
89	Sei Kiguna	産婦人科学	Moyamoya disease and pregnancy: case reports and criteria for successful vaginal delivery	Clinical Case Reports 6(1)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
90	Kato Masafumi	産婦人科学	DNA mismatch repair-related protein loss as a prognostic factor in endometrial cancers	J Gynecol Oncol 6(1)
91	Hiroaki Soyama	産婦人科学	Dedifferentiated endometrioid adenocarcinoma of the uterus: a case report and review of adjuvant therapeutic modalities.	Eur J Gynaecol Oncol
92	Miyamoto Morikazu	産婦人科学	High-temperature-required protein A2 as a predictive marker for response to chemotherapy and prognosis in patients with high-grade serous ovarian cancers (High-temperature-required protein	Brit J Cancer 112 (4)
93	Masafumi Kato	産婦人科学	The impact of ARID1A/BAF250a expression upon carcinogenesis and clinicopathologic factors in pure-type clear cell adenocarcinoma of the ovary.	Mol Clin Oncol
94	Yamashita Taku	耳鼻咽喉科学	Serum midkine as a biomarker for malignancy, prognosis, and chemosensitivity in head and neck squamous cell carcinoma.	Cancer Med. 2016 Mar;5(3):415-25.
95	Maeda Mayuka	耳鼻咽喉科学	A case of nasal septal abscess caused by medication related osteonecrosis in breast cancer patient.	Auris Nasus Larynx. 2016 Feb;43(1):93-6. doi: 10.1016/j.anl.2015
96	Niwa Katsuki	耳鼻咽喉科学	The beneficial effect of Hangesha-shin-to (TJ-014) in gentamicin-induced hair cell loss in the rat cochlea.	Auris Nasus Larynx. 2016 Jan 18. pii: S0385-8146(15)30012-2. doi:
97	Kurioka Takaomi	耳鼻咽喉科学	ERK2 mediates inner hair cell survival and decreases susceptibility to noise-induced hearing loss.	Sci Rep. 2015 Nov 18;5:16839. doi: 10.1038/srep16839
98	Suzuki Hiroshi	耳鼻咽喉科学	Value of a novel PGA-collagen tube on recurrent laryngeal nerve regeneration in a rat model.	Laryngoscope. 2015 Nov 3. doi: 10.1002/lary.25750 . [Epub ahead of print]
99	Mizutari Kunio	耳鼻咽喉科学	High prevalence of CDH23 mutations in patients with congenital high-frequency sporadic or recessively inherited hearing loss.	Orphanet J Rare Dis. 2015 May 13;10:60. doi: 10.1186/s13023-015-0276-z
100	Daisuke Mizokami	耳鼻咽喉科学	Tacrolimus prevents laryngotracheal stenosis in an acute-injury rat model.	The Laryngoscope 125(6)210-215,2015
101	Sato Tomohito	眼科学	Treatment of irradiated mice with high-dose ascorbic acid reduced lethality	PLoS ONE 10: e0117020, 2015
102	Takeuchi Masaru	眼科学	Elevated Levels of Cytokines Associated with Th2 and Th17 Cells in Vitreous Fluid of Proliferative Diabetic Retinopathy Patients.	PLoS One10(9) in Press, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
103	Takeuchi Masaru	眼科学	Reconstitution of disrupted photoreceptor layer in uveitis associated with Behçet's disease by infliximab treatment.	BMC Ophthalmology 15:177, in Press, 2015
104	Takeuchi Masaru	眼科学	Evaluation of Efficacy and Safety of Latanoprost/Timolol versus Travoprost/Timolol Fixed Combinations for Ocular Hypertension Associated with Uveitis.	Ocul Immunol Inflamm 22, 1-6, 2016
105	Ishigaki Sayaka	麻酔学	Saline Flush After Rocuronium Bolus Reduces Onset Time and Prolongs Duration of Effect: A Randomized Clinical Trial	Anesthesia and Analgesia 122(3): p.706-711, 2016.03
106	Yufune Shinya	麻酔学	Transient Blockade of ERK Phosphorylation in the Critical Period Causes Autistic Phenotypes as an Adult in Mice	Scientific reports 5(10252): p.1-16, 2015.05
107	Hagisawa Kosuke	生理学	Fibrinogen $\gamma$ -chain peptide-coated, ADP-encapsulated liposomes rescue mice from lethal blast lung injury via adenosine signaling	Crit Care Med, in press
108	Hagisawa Kosuke	生理学	Treatment with fibrinogen $\gamma$ -chain peptide-coated, ADP-encapsulated liposomes as an infusible haemostatic agent against active liver bleeding in acute thrombocytopenic rabbits	Transfusion 55: 314-25, 2015
109	Takikawa Makoto	医用工学	improved angiogenesis and healing in crush syndrome by fibroblast growth factor-2-containing low-molecular-weight heparin(Fragmin)/protamine nanoparticles	Journal of Surgical Research 196(2),247-57,2015
110	Shoji Ichiro	歯科口腔外科	Reflex arc of the teeth clenching-induced pressor response in rats.	Journal of Physiological Sciences (under review)
111	Miyawaki Hiroki	救急部	Noradrenalin effectively rescues mice from blast lung injury caused by laser-induced shock waves	Intensive Care Med Exp 3:32. doi: 10.1186/s40635-40015-40069-40637. 2015
112	Sho Ogata	検査部	Expressions of Thyroid Transcription Factor-1, Napsin A, p40, p63, CK5/6 and Desmocollin-3 in Non-Small Cell Lung Cancer, as Revealed by Imprint Cytology Using a Malinol-Based Cell-Transfer Technique.	Acta Cytol. 2015;59(6):457-64.
113	Sho Ogata	検査部	Human intestinal spirochetosis: right-side preference in the large intestine.	Ann Diagn Pathol. 2015;19(6):414-7
114	Koike Masayuki	放射線部	A skyline-view imaging technique for axial projection of the patella: a clinical study	Radiological Physics and Technology 8:174-177,2015
115	Miyazaki Hiromi	外傷研究部門	Thoracic shock wave injury causes behavioral abnormalities in mice	Acta Neurochir 157: 2111-20, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
116	Miyazaki Hiromi	外傷研究部門	Burn -Evoked Reactive Oxygen Species Immediately After Injury Are Crucial to Restore the Neutrophil Function Against Postburn Infection in Mice	Shock 44: 252-7, 2015

小計 1  
計 116

(注) 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

2 研修の実績

研修医の人数	106人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	27年	
熊谷 裕生	内科	教授	34年	
穂刈 量太	内科	教授	25年	
川名 明彦	内科	教授	32年	
木村 文彦	内科	教授	32年	
池脇 克則	内科	教授	32年	
山本 順司	外科	教授	35年	
長谷 和生	外科	教授	35年	
田口 眞一	外科	教授	32年	
吉野 相英	精神科	教授	32年	
野々山 恵章	小児科	教授	34年	
千葉 一裕	整形外科	教授	33年	
森 健太郎	脳神経外科	教授	34年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	31年	
浅野 友彦	泌尿器科	教授	35年	
古谷 健一	産科婦人科	教授	37年	
竹内 大	眼科	教授	27年	
塩谷 彰浩	耳鼻咽喉科	教授	29年	
加治 辰美	放射線科	教授	37年	
風間 富栄	麻酔科	教授	35年	
池内 尚司	救急救命センター	教授	36年	
斎藤 大蔵	外傷研究部門	教授	33年	
清澤 智晴	形成外科	准教授	34年	
中西 邦昭	検査部	教授	36年	
小林 龍生	リハビリテーション部	教授	35年	
田中 祐司	総合臨床部	教授	32年	
辻 明	輸血・血液浄化療法部	教授	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべ

- てのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画    ② 現状
管理責任者氏名	病院長 長谷 和生
管理担当者氏名	庶務課長 松岡 秀広    医事課長 白井 克昌    材料部長 竹内 大 医療情報部長 池脇 克則    薬剤部長 松本 直人 医療安全推進室長 新本 弘    感染対策室長 横江 秀隆

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	医療情報部
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	材料部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	材料部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	材料部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	材料部		

文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全推進室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	医療安全推進室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 長谷 和生		
閲覧担当者氏名	各診療科部長 庶務課長 医事課長 材料部長 薬剤部長		
閲覧の求めに応じる場所	病院第3議室		
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
・ 指針の主な内容： 安全管理システムの構築、医療従事者の研鑽、安全管理組織の充実、インシデントレポートの推進、医療事故発生時の対応方針、患者家族との情報交換、患者相談窓口の設置	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 ( ☑・無 ) ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： (1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関する事 (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関する事 (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関する事 (4) 医療事故発生時の対応要領に関する事 (5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： (1) 医療安全研修の実践 (2) 安全対策プロジェクトチームの取り組み (3) 採用時オリエンテーション (4) 院外講師による医療安全に関する講演 (5) 麻薬施用者講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☑・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 合併症事例に係る報告の義務化 (2) 院内暴言・暴力に係る報告制度 (3) 安全対策プロジェクトチーム及び小委員会において改善策を検討及び検証のための病棟ラウンド	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 感染対策研修の実施 (2) 周術期抗菌薬適正使用への取り組み (3) 院外講師を招聘し、医療関連感染対策講習会を開催 (4) 採用時オリエンテーション (5) 手指衛生と個人防護具着脱について部署別研修</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施 (3) ATP 拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る  
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容： (1) 輸液の感染管理(2回) (2) 麻薬施用者講習会 (3) 薬剤に関する勉強会 (4) 初任者研修 薬剤の取扱い(2回) (5) 初任者オリエンテーション	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( 有・無 ) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品の選定 (2) 医薬品管理 (3) 調剤 (4) 薬剤管理指導業務 (5) 医薬品情報 (6) 地域薬剤師会との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  (1) 医薬品の安全確認のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施 【収集方法】 ① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集 ② 医薬品安全対策情報(DSU)からの情報収集 ③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集 【周知方法】 ①院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース  (2) その他(病院独自で取り組んでいる内容) ① オーダリングシステムによる安全管理 ② 医療上からの必要性から併用禁忌薬を投与せざるを得ない場合の対処 「併用禁忌薬取扱い指針」・「併用禁忌薬取扱い要領」の策定	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 4 回
・ 研修の主な内容： (1) 初任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理 (2) 使用者に対する機器操作と安全管理 (3) 機器導入時の操作法と安全管理 (4) 使用現場巡回安全管理指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) ・ 保守点検の主な内容：  人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部分担又は部外委託で実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>毎月開催される安全管理委員会において、各責任者からの報告受受け、指導を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報 (DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構の HP から情報の収集と整理を行い、毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示を行う。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>H28.9月までは未承認薬、適応外使用薬 (一部)、院内製剤は倫理委員会病院分科会で、併用禁忌は安全管理委員会で使用の適否を審議後、病院長通知で使用。H29.10月より未承認医薬品等評価小委員会で審議の一本化を行い、使用の適否を審議し薬事委員会へ報告、薬事委員会で審議後、病院長通知で使用。</p> <p>H28.3月よりオーダーリングシステムで処方入力時にチェックされ、適応外使用は使用できる疾患名のワーニング表示、疾患禁忌は登録病名に対し使用禁止のワーニングが表示される仕様とした。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p>	

<p>・規程の主な内容：</p> <p>インフォームドコンセントとカルテ記載状況を標準化し安全管理マニュアルの該当部分を改定した。</p>	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有・無</p>
<p>・活動の主な内容：</p> <p>平成 27 年 4 月からカルテ及び同意書等の効率的な運用を図ることを目的としてカルテ分科会を設立し、以下のことを行った。</p> <p>(1) 既存の説明文書、同意書の見直しを行い医療情報システムへの導入を行い完了している。</p> <p>(2) カルテ分科会委員が定期的にインフォームドコンセントとカルテ記載状況を調査し指導するとともに調査指導内容の報告書を作成している。</p>	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>有・無</p>
<p>・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（2）名</p> <p>うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（2）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(2) 患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(3) 事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(4) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>(5) 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認</p> <p>(6) 医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。</p> <p>(7) 医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。</p> <p>(8) 医療安全文化の醸成に関すること。</p> <p>(9) 前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</p>	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
<p>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況</p>	

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
  - \* 経過措置の適用により様式8「医療安全に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
 

未承認新規医薬品等の定義と申請に必要とする検討項目を「医薬品安全使用のための業務手順書」と「未承認新規医薬品等使用願」、「院内製剤使用願」に記載  
 詳細は現在策定中
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：
 

来年3月までに、部外委員3名を含めた監査委員会を設置予定であり、所要の諸経費（謝金、旅費等）について平成29年度概算要求を実施中である。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	------	---------------

				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 405 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 8 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容  
安全管理委員会は、次の事項を審議する。
  - (1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関すること。
  - (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること。
  - (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること。
  - (4) 医療事故が発生した場合における対応要領に関すること。
  - (5) 安全管理体制の確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること。
  - (6) 前各号に掲げるもののほか、医療安全管理に関すること。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
  - \* 経過措置の適用により様式8「医療安全に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

毎年、医療安全講習会を1年に2回実施。全職員100%の受講を確認している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

国立大学病院医療安全協議会、医療安全セミナー、医薬品安全管理責任者研修、MDIC（医療機器情報コミュニケーター）認定セミナー等参加

(様式第8)  
防医病医第1931号  
平成28年 9月 1日

厚生労働大臣 殿

防衛医科大学校病院長  
管理者名 長谷和生 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

・本年4月1日付で整備済み。

「防衛医科大学校病院医療安全管理規則（防衛医科大学校病院規則第1号（15. 3.31））（以下「安全管理規則」という。）」の改正により、副院長（医療安全担当）を「医療安全管理責任者」として定義

また、医療安全管理体制に関して、現在「防衛医科大学校病院医療安全管理マニュアル（以下「マニュアル」という。）」を改訂作業中である。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品安全管理責任者については、従前からは「安全管理規則」に定義されている。

また医薬品安全管理責任者は、医療安全に関する研修会に参加しているが、今後さらにこれを充実させるための措置を検討中である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

・本年4月1日付で整備済み。

「安全管理規則」の改正により、「適切なインフォームド・コンセントの実施及び診療録の管理のための責任者」を設置し、抗加齢血管内科教授を責任者に任命した。

#### 4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

- ・本年4月28日付で整備済み。

当院作成の「マニュアル」において従前からICに係る要領等の規程があったが、実施する際の実行者、標準的な説明内容等に関する修正を行い、本年4月28日付の安全管理委員会において承認された。

#### 5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

- ・本年4月1日付で整備済み。

「安全管理規則」の改正により、「適切なインフォームド・コンセントの実施及び診療録の管理のための責任者」を設置し、抗加齢血管内科教授を責任者に任命した。

#### 6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

・院内全死亡例に関しては、医療情報部から医療安全推進室への情報提供により、全例把握した上で病院長に報告をしている。また各診療科での死亡例カンファレンスの実施状況に関しても、医療安全推進室で把握しており、毎月部長会で報告をしている。問題のある事例に関しては、事例検討会、事例審議会を適宜開催して検討を行っている。

#### 7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

・内部通報窓口の設置に関し規定を作成し、9月期安全管理委員会での承認受けを予定しており、今後「マニュアル」に収載予定である。

#### 8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

・今後、医療安全管理責任者の指導の下、医療安全に資する診療内容のモニタリング（DVT予防の実施と合併症の発生率等）や医療安全に関する意識の向上の状況の確認（院内ラウンド、医療安全教育後の確認テスト、医療安全文化の認識についてアンケート等）を平成29年4月までに実施予定である。

#### 9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 本年7月末日までに部門の設置等について以下のとおり院内の認識を統一
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会は今年度内に発足予定
- ・ 「高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門（以下、「担当部門」という。）については安全管理委員会とする。
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会については、高難度新規医療技術に関する知見を有する医師（肝胆膵外科教授）を委員長とし、その他の医師8名を委員として組織することが決定しており、その人選も完了している。
- ・ 担当部門と高難度新規医療技術評価委員会、そして既存の倫理委員会（病院分科会）との関係性及び承認等の要領については、現在検討を深化させているところである。

#### 10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

- ・ 規程については平成29年3月までに作成予定
- ・ 担当部門が、高難度新規医療技術による施術等が行われる前に確認すべき事項としては、以下の4点を基本とする。
  - (1) 高難度新規医療技術と既存の医療技術とを比較した場合の優位性（合併症の可能性及び程度等の安全性の観点を含む。）
  - (2) 高難度新規医療技術を提供するに当たって必要な設備・体制の整備状況
  - (3) 患者の診療を担当する医師の経験
  - (4) 患者への説明及び同意の取得の方法
- ・ 診療科が高難度新規医療技術による施術等を行った症例について、定期的に、及び患者が死亡した場合その他担当部門が必要とする場合に担当部門に報告する要領等については現在検討中である。

#### 11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を薬事委員会（庶務担当：薬剤部）として、その詳細な検討を行う部門として未承認新規医薬品等評価小委員会を設置し、未承認新規医薬品等の承認手順と規則改正、規則制定に関して、安全管理委員会、病院運営会で承認を得た。平成28年10月から運用開始。

**12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置**

・平成28年10月整備済み。「未承認新規医薬品等取扱要領」と「未承認新規医薬品等使用願」を作成し、申請された使用願について未承認新規医薬品等評価小委員会と薬事委員会がその適正について審議を行う。

**13. 監査委員会を設置するための予定措置**

・来年3月までに、部外委員3名を含めた監査委員会を設置予定であり、所要の諸経費（謝金、旅費等）について平成29年度概算要求（財務省に対する予算要求）を実施中である。

**14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置**

・当院においては、国立大学附属病院長会議会員（42校）の医療安全管理担当者による「医療安全・質向上のための相互チェック」への参加を今年度から認められたところであるが、それ以外の特定機能病院が参加する拡大相互チェック（ピアレビュー）について、どのような枠組みで開催するかが不明確であり、秋期の国立大学附属病院長会議医療安全協議会総会での発信を待って対応予定である。

**15. 職員研修を実施するための予定措置**

・毎年、医療安全講習会を1年に2回実施しており、今後も継続する。

**16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置**

・医療安全管理責任者である副院長（医療安全担当）は、医療事故・紛争対応研究会主催平成27年度医療事故・紛争対応人材講座（計6日間）を受講した。  
・医療に係る安全管理のための研修（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するため、時期・内容等を検討中であり、平成29年1月に次年度予算執行計画の審議を予定しているため、その時点で要求予定。

#### 17. 医療安全管理部門の人員体制（本年9月1日現在）

- ・所属職員： 専従（2）名、専任（1）名、兼任（2）名
  - うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名
  - うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
  - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

※なお、専任医師1名（医療安全・感染対策部長（教授））を、本年10月から配置する。

#### 18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ・当院は国立（防衛省）の医療機関であることから、平成29年度機構・定員要求により、専従薬剤師1名の定員化について防衛省本省及び内閣人事局へ要求中であり、要求が認められた場合は29年度中に配置予定。

\*今後、専従医師（講師）1名を配置予定（平成30年3月まで）である。